

リニア中央新幹線についての定点観測アンケート

～ 当地域の期待度は高水準で推移 ～

当研究所が毎年定期的実施している「リニア中央新幹線についての意識調査」アンケートの平成5年度調査を本年3月に実施した。その結果を報告する。

1. 今回は女性回答者が過半数、広範囲からのご意見が

今回のアンケートは『飯伊地区産業経済動向』（以下『動向』）の調査先および発送先（読者）に加え、金庫の営業店窓口等でお取引先様に広くご協力をお願いしたことから、女性の回答者数が男性のそれを上回った。

それにより、回答者の職業では「会社員」が半数近くを占め、「会社役員」の比率が30%を切る結果となった。当リニアアンケートでは『動向』調査先・発送先に加えて一般の皆さまにお聞きすることを令和3年及び元年に実施しており、「会社員」と「会社役員」の比率が交互に変動していることに留意いただきたい。

今回の回答数は261（前回129）に及び、お忙しい中調査にご協力いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

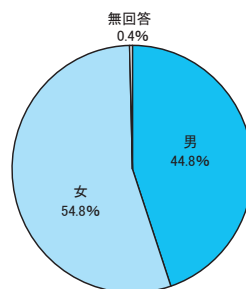
2. 「リニアに期待」は8割台を維持

「Q リニア中央新幹線に期待していますか」は83.4%と前回調査をやや下回るものの8割台を維持している。広く一般の皆さまにお聞きした前々回（令和3年度）調査の77.3%を上回り、同じ調査方法の令和元年度および3年度の水準を超えている。

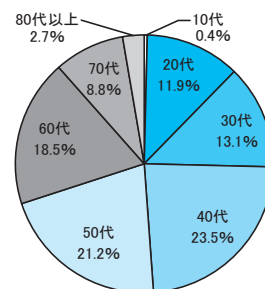
「期待している」を男女別にみると、男女とも80%を超えてほぼ拮抗している。これまでのアンケートでは、女性の期待度が男性より低い傾向が見られたが、徐々に差が小さくなっている。

当研究所のアンケート調査は、企業の経営者層等が中心で産業界・経済界の意識が反映されがちと考えているが、一般の方の意見が多く含まれる今回調査でも80%超の「期待している」があることから、当地域での期待感が底堅いものとみられる。天竜川橋梁や駅周辺整備、関連道路など、工事の進展が当地域内各地で目に見えてきていることも背景と考えられる。

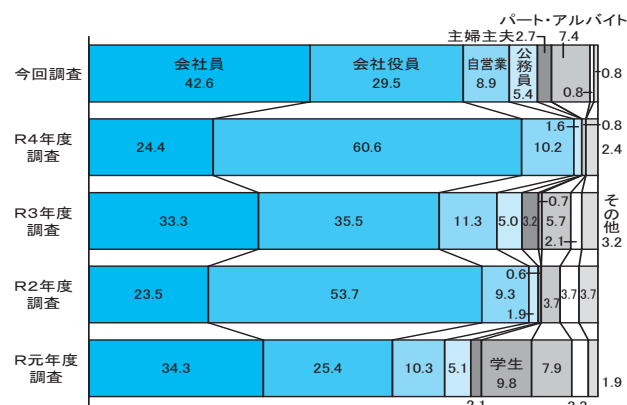
Q 回答者の性別は



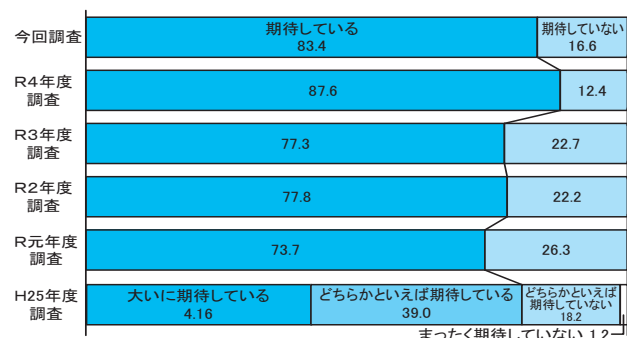
Q 回答者の年齢は



Q 回答者の職業は



Q リニア中央新幹線に期待しますか



Q リニア中央新幹線に期待しますか（男女別推移）



3. 「リニアに不安を感じる」は減少も4割台

次に「Q リニア中央新幹線に不安を感じますか」は、「不安を感じる」が前回調査よりやや減少したが4割台となっている。最初の調査（平成25年）から減少してきたが令和3年度調査から増加に転じ、今回調査では前回調査をやや下回ったものの4割台で推移。男女別にみると予てより女性が男性よりも「不安を感じる」意見が多くみられたが、今回調査では「不安を感じる」は男性の方が比率が高い。

前回調査から、「不安を感じる」の理由として「リニアの開通がいつになるか分からないから」という回答が目立ってきたが、今回調査では、「Q 不安を感じる理由」（複数回答）の総数195のうち67と34.4%（前年度調査は総数86のうち28、32.6%）を占めた。

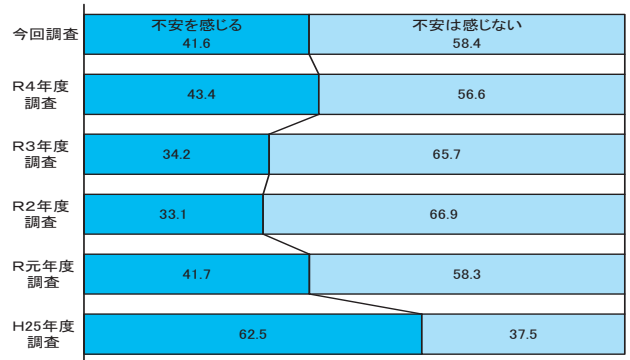
以下「騒音や振動、水や生態系など環境への悪影響」15.9%、「人口の流出」13.8%、「消費の流出」10.8%、「工事中の事故」8.7%、「大手資本や大手流通の地域流入」6.7%、「開通後の事故」4.1%、「その他」5.6%となっている。「その他」の内容としては、「JR東海の情報開示が不十分」、「雇用の確保で大都市企業との獲得競争が激化する、労働力の流出」、「リニアで当地に来てもらうためのブランド戦略が見えてこない、ビジョンが明確でない」、「開業遅れのせいにして当地域の対応が遅れていく恐れ」、「治安悪化」などが挙げられた。

「不安を感じる」理由のうち「開通時期不明」のみを挙げた回答者数がないものとして「不安を感じる・感じない」の比率を出すと、「不安を感じる」回答者の補正後比率は前回調査のそれを更に下回る。

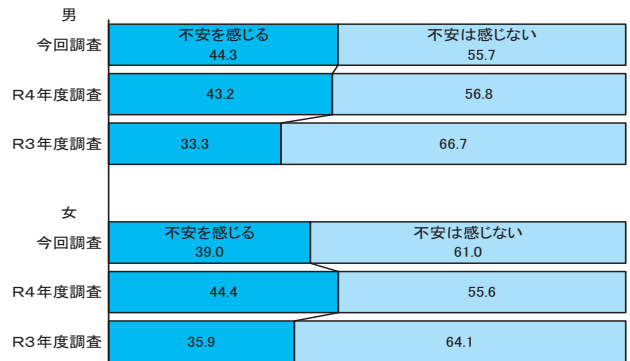
今回調査、前回調査において「不安を感じる」がそれ以前より高まっていることは、南アルプストンネル静岡工区の着工見通しが立たないことや全体として工事の進捗が見えないこと、などで先行き不安を感じられていることが大きな要因と考えられる。

リニアに対する不安理由について、「不安を感じる」回答者のうちの「開業時期不明」を挙げている回答者の比率、および「不安を感じる」の理由のうちの「開業時期不明」の占める割合を調査年度別に、併せて今回調査分については男女別の状況も示す。

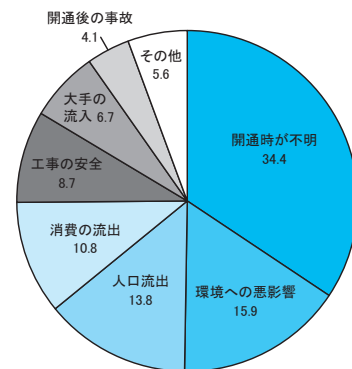
Q リニア新幹線に不安を感じますか



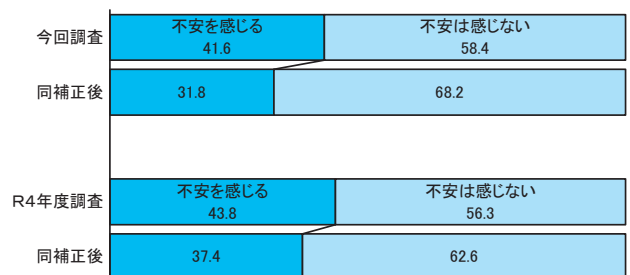
Q リニア新幹線に不安を感じますか（男女別）



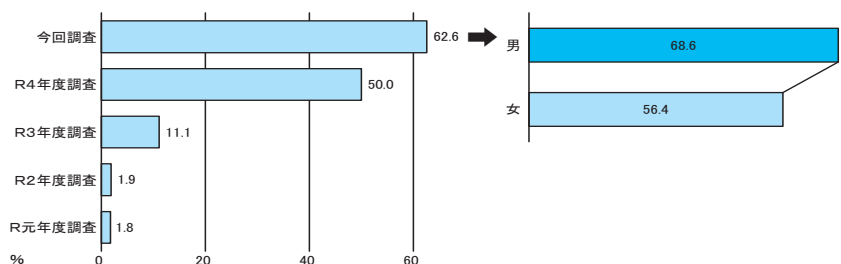
Q リニア新幹線に不安を感じる理由



Q リニア新幹線に不安を感じる（開通時期不明分の補正）



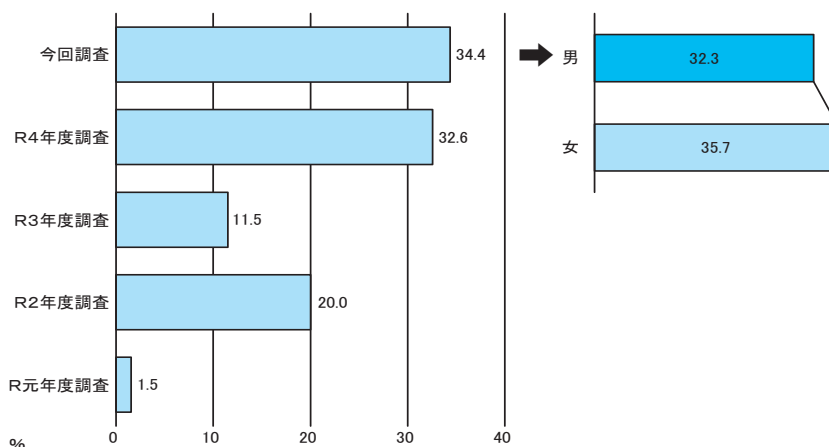
Q「不安を感じる」回答者のうち「開業時期」の割合



これによると、「不安を感じる」とする回答者のうち「開業時期不明」を挙げている比率は前回調査から急激に増加。男女別では男性が高く、開業時期をより心配しているといえる。

挙げられている不安の理由（複数回答）総数のうち「開業時期不明」の割合は女性の方が高く、女性の方がより開通時期についての関心度合いが高いといえることができる。

Q「不安を感じる」理由のうち「開業時期」の割合



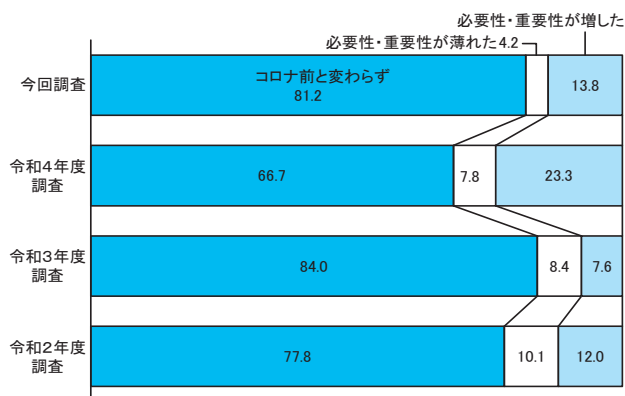
4. コロナ禍を経ての思い「必要性・重要性が増した」は一般にも広がる

コロナが始まって毎回の調査でお聞きしてきた「Q コロナ禍を経て、リニアに対する思いが変わりましたか」は、前回大きく動いたが、今回調査では同じく一般の皆さまにお聞きした前々回調査と似た状況になった。ただ、「必要性・重要性が増した」は前々回7.6%から13.8%と倍近くになっており、「必要性・重要性が薄れた」は前回調査より減少、前々回調査からはほぼ半減という結果となった。

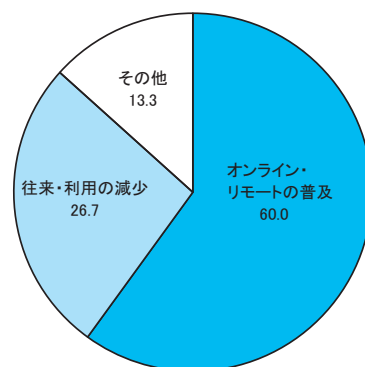
「必要性・重要性が薄れた」する回答者の理由（複数回答）としては、「オンライン・リモートの普及による移動の減少」を挙げたのが60.0%、「往来や新幹線利用の減少」が26.7%、「その他」が13.3%。「その他」の内容としては「人口の減少により東海道新幹線で足りる」、「中間各駅の発展が期待できない」、「飯田が通過点になるだけ」といった意見があった。

「必要性・重要性が増した」とする回答者のうち、「都市部への集中が見直され、短時間で移動できる地方への注目が高まる」を挙げているのは60.0%、「オンライン会議やリモートワークの普及により、Uターンや都会からの移住が増える」は30.0%、「その他」10.0%となっている。「その他」の内容として、「リニア駅があることで大学誘致やイベントの開催などで当地域の優位性が増す」、「大規模災害で東海道新幹線が不通の際のバックアップになる」、「インバウンドの誘客効果」、「（リニアが）海外への技術移転のショーウィンドーになる」などがあった。

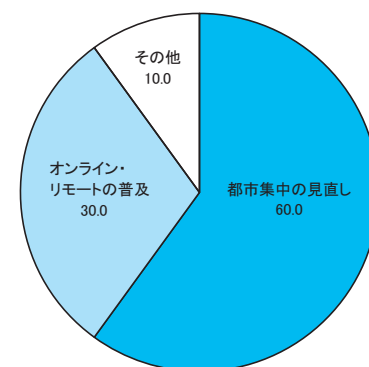
Q コロナ禍を経て、リニアに対する思いが変わりましたか



Q リニア中央新幹線の重要性・必要性が薄れた理由は



Q リニア中央新幹線の重要性・必要性が増した理由は



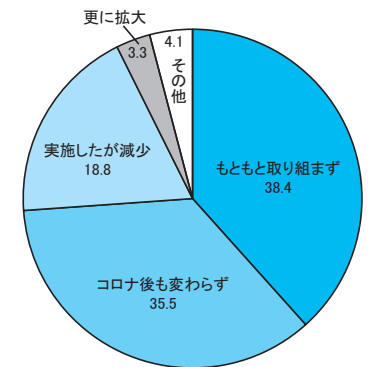
5. アフターコロナの日常生活は 日常に回復したもの・未だのもの

今回調査では、新型コロナウイルスが5類になって初めてのアンケートであることから、当地域の事業所及びご家庭の状況を伺った。

(1) 「Q ウェブ会議、リモートワークの状況は」

最も多かったのが「もともと取り組まなかった」38.4%、続いて「コロナ後も変わらず利用（取り組み）」35.5%、「実施したが減少傾向」18.8%、「更に拡大に取り組む」3.3%の順だった。「その他」では「もともと Web 会議が適さない業種・職種」が複数あった。

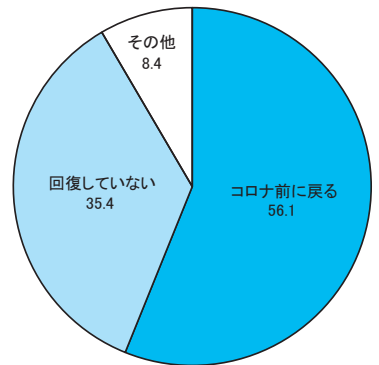
Q Web会議、リモートワークは



(2) 「Q 社内コミュニケーションは」

リアルでの会議や社員による飲み会などの状況は、「コロナ前に戻る」56.1%、「回復していない」35.4%となっている。「その他」には、「（飲み会等）もともとやっていない」、「飲み会は減っている」、「実施したところ感染が発生」などがあつた。

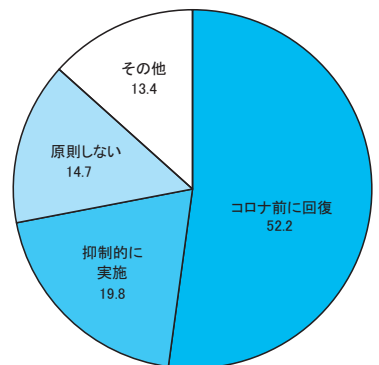
Q 社内コミュニケーションは



(3) 「Q 出張の状況は」

「コロナ前に回復」52.2%、「抑制的に実施」19.8%、「実施しない」14.7%の順。「その他」には、「元々出張がない業種・職種」が複数、「Web で済む先はそのままなので結果として増えていない」など。

Q 出張の状況は



(4) 「Q 職場のマスクの着用は」

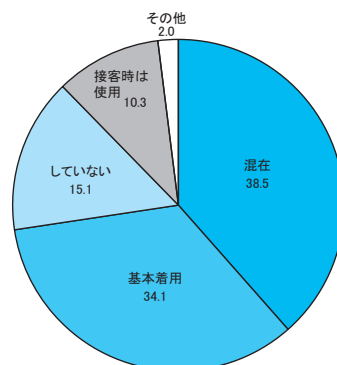
「着用する人・しない人が混在」38.5%、「基本着用」34.1%、「着用していない」15.1%、「接客時は着用」10.3%。「その他」には「元々仕事でマスクする業種・職種」というのがあつた。

(5) 「Q 家族や個人での旅行は」

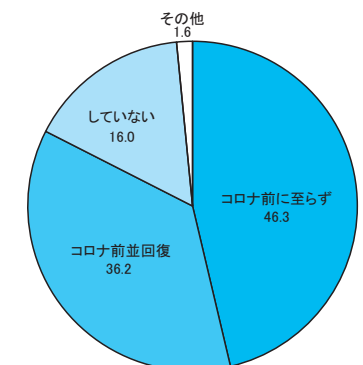
「コロナ前に至っていない」46.3%、「コロナ前に回復」36.2%、「していない」16.0%となっている。「その他」では、「コロナに関係なく旅行を実施」「コロナ前に復するが、海外にはいかなかった」などがあつた。

皆さまの事業所およびご家庭の状況はいかがでしょうか。

Q 職場のマスクの着用は



Q 家族や個人での旅行は



おわりに

本アンケート調査は、令和6年3月に実施し、大半の回答が3月20日頃までに寄せられている。そのため、3月29日の「リニア新幹線品川ー名古屋開業が2034年以降になる」との発表（国の有識者会議）や、4月2日の川勝静岡県知事の辞任表明、同4日の「当地域の座光寺高架橋と保守基地の工期を2031年とする」発表などは、当地域のリニア新幹線への期待度にプラス・マイナスに作用していると考えられる。

それ以降の当地域の皆さまの意識変化がどのようなものか、これからどうなっていくか。今後とも様々な機会を通じてお聞きしていきたい。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）